

平成 17 年度 / 第 5 回 理事会 議事録

日 時 平成 18 年 3 月 8 日 (水) 15 時 ~ 17 時

場 所 電気学会 第 1 ~ 3 会議室

出席者：長谷川 淳会長，野嶋 孝会長代理，臼田誠次郎・高木洋隆・佐々木三郎 各副会長，
滝沢照広・青嶋義晴・日高邦彦・田井一郎 各常務理事，村岡泰夫専務理事，井上良
之・石井 勝・下位紘一・大西公平 各部門長，森泉豊栄 E 準部門長，西谷健一・
前川文章 (代理：秋山康人氏)・塚本修巳・松井信行・作井正昭・島崎眞昭・白髭修
一・原田律夫・芦塚日出美 (代理：甲斐郁人氏) 各支部長，貞川郁夫・佐藤裕雄
各監事，加藤政一氏 (ICEE 日本委員会委員長)
オブザーバ：川北浩司・戸谷 敦・後藤博之・小林昌三・小山泰史
事務局：島田敏男事務局長，神尾知幸事務局長代理，細川 亮，会田 宏，槌屋孝司，
栗原正明，森 正美，板橋忠幸

配布資料

平成 17 年度 / 第 4 回 理事会 議事録 (案)

1. 平成 17 年度事業報告 / 平成 18 年度事業計画
2. 平成 18 年度役員選挙開票結果
3. 電気学会定款変更 (案)
4. 特定積立預金の提案
5. 全国大会委員会 運営要綱の改訂について (提案)，他
6. 国際会議計画趣意書 (ICEE2008 開催申請)
7. 共通英文論文誌刊行における印刷会社選定について，他
8. IEEJ プロフェッショナル候補者の資格認定について
9. 2005 年 12 月 ~ 2006 年 2 月会員入(退)会の承認について
10. 平成 17 年度 業務監査の実施について
11. 平成 17 年度 名誉員の推薦について
12. 第 94 回通常総会「特別講演」開催のご案内
13. 平成 17 年度 第 2 回 電気・情報関連学会連絡協議会 議事録 (案)
14. 東北支部役員の交代について
15. 東京支部役員の交代について
16. 平成 18 年電気学会全国大会
17. 事業概況報告 (平成 18 年 2 月末日現在)
18. 物理チャレンジへの参画について，他
19. 公開シンポジウム「若者に電気の夢を」開催速報

議事概要

開会に先立ち，事務局から定款第 30 条 (理事会の定足数等) に基づき，本理事会は出席理事 25 名 (代理出席 2 名を含む) で成立条件の定足数 (理事現在数の 2 分の 1 以上 : 13 名以上) が満たされている旨の報告があり，定刻より滝沢総務企画理事の議事進行により議案の審議を開始した。

1. 前回議事録の確認

資料「平成 17 年度 / 第 4 回 理事会議事録(案)」に基づき，事務局から概略の説明があり，滝沢総務企画理事から事前に配布してすでに確認頂いているが，さらなる修正箇所等の有無

を確認した結果、異議なく承認された。

2. 審議事項

2.1 平成 17 年度事業報告と平成 18 年度事業計画について

村岡専務理事から資料 1「平成 17 年度事業報告 / 平成 18 年度事業計画」に基づき、事業計画については前回理事会で審議頂いたため、事業報告を中心に項目ごと（相互研鑽（ピアレビュー）の推進、情報発信の推進、人材育成の推進、社会への貢献と電気技術への理解活動の推進、学会組織・運営基盤の強化）に説明があり審議の結果、意見があれば村岡専務理事まで連絡することとした。

2.2 平成 18 年度役員選挙開票結果について

村岡専務理事から資料 2「平成 18 年度役員選挙開票結果」に基づき本部・部門・支部役員候補者等の開票結果について説明があり審議の結果、承認された。

2.3 定款の変更（案）について

島田事務局長から資料 3「電気学会定款変更（案）」に基づき、平成 17 年 7 月の文部科学省実地検査による指摘箇所およびその後の同省との折衝による追加箇所に対応するための変更（案）について説明があり審議の結果、提案どおり定款第 48 条（収支決算）・同第 17 条（役員の任期）等の改正が承認され、第 94 回通常総会で承認され次第、文部科学省へ申請し認可を受けることとした。

2.4 特定積立預金の提案について

高木副会長から資料 4「特定積立預金の提案」に基づき、次回 O A システム更新を平成 23 年と想定し、目標額を 100 百万円として平成 17 年度から積み立てを行っていくこととした。また、併せて創立 120 周年（平成 20 年）・125 周年（平成 25 年）など節目の年に際して記念事業等を実施する資金として、50 百万円の積み立てを行っていくこととしたいとの提案があり審議の結果、積み立てを行うことについては了承された。記念事業の具体的内容については、今後総務会議において議論し、別途理事会へ提案することとした。

【出された主な質疑：Q，A】

Q：例えば 万円 / 年など、目標達成に向けた具体的な積立額のシミュレーションはどのように考えているのか？

A：年度の収支状況によって積立額が変わってくるが、その都度理事会へ諮りながら進めていくこととしたい。現段階では基本的な考え方を承認頂きたい。

2.5 全国大会委員会運営要綱の改訂について

佐々木副会長から資料 5「全国大会委員会 運営要綱の改訂について（提案）」に基づき、運用の実態に合わせた全国大会関係委員会の構成等の変更であり、大会委員会と小委員会との棲み分けが可能となり現行のような議論の重複が避けられるなどのメリットが考えられるとの説明があり、審議の結果、提案どおり承認された。

2.6 ICEE2008 開催申請について

加藤政一 ICEE 日本委員会委員長から資料 6「国際会議計画趣意書（ICEE2008 開催申請）」に基づき、1995 年以来、原則として日本・韓国・中国・香港の持ち回りで開催されており、開催地持ち回りの原則から、2008 年は日本での開催が内外から要望されていることを含め、次のとおり開催概要の説明があり審議の結果、開催することが承認された。

なお、開催にあたっては、九州支部沖縄支所の全面的なバックアップをお願いすることとした。

- ・開催期日：平成 20 年 7 月 6 日（日）～10 日（木）（予定）
- ・開催場所：沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）（予定）
- ・発表論文数：約 450 件
- ・参加予定者数：約 500 名
- ・本国際会議の運営に際しては運営委員会・実行委員会・論文委員会を設置するが、各委員会が発足までの間は、ICEE 日本委員会が準備委員会を兼ね、具体的な開催計画は、改めて理事会に提案することとしたい。

2.7 共通英文論文誌の刊行について

日高編修理事から資料 7「共通英文論文誌刊行における印刷会社選定について」に基づき以下の選定理由により、編修会議（平成 18 年 3 月 3 日開催）において、平成 18 年 5 月創刊予定の共通英文論文誌の印刷を John Wiley & Sons 社にて行うことを決議したとの説明があり、審議の結果、引き続き John Wiley & Sons 社との交渉を進めることが承認された。

- ・世界的なネットワークを持ち、販売事業も行う John Wiley & Sons 社を通じて出版することにより、共通英文論文誌を広く海外に発信することができる。
- ・John Wiley & Sons 社のプロモーション活動により、世界の主要な学術刊行物データベースへの掲載の働きかけが行われ、SCI 登録に向けて有利な展開が見込まれる。
- ・John Wiley & Sons 社のネイティブの校閲者が、アクセプトされた原稿のチェックを行うことでグローバルに通用する英文論文を掲載することができるとともに、販売促進として同社が実施する当初 2 年間の無料配布期間は同社が全費用を負担してくれる。

【出された主な質疑：Q，A / 意見：C】

C：契約が切れる時が問題であり、3 年目からの費用負担等の問題については今後、慎重な確認や議論が必要である。

C：著作権の共同保有の問題をクリアしておく必要がある。

C：契約手続きを慎重に進めるため、必要に応じ弁護士にも確認してもらうべきである。

Q：Web 上で 2 年間は無料公開するとのことだが、有料部門誌代は、どのように設定するのか？

A：他の有料部門誌代と整合を取り、無料公開期間中および 3 年目以降ともに 6,000 円 / 年と設定することとしたい。

2.8 IEEJ プロフェッショナル候補者の資格認定

栗原課長から、資料 8「IEEJ プロフェッショナル候補者の資格認定について」に基づき、次のとおり説明があり審議の結果、1 月 13 日までに申請があった 8 名が IEEJ プロフェッショナルとして認定された。

- ・平成 18 年 1 月 13 日の第 4 回登録申請締切までに 8 件の申請があった。
- ・第 4 回 IEEJ プロフェッショナル資格認定審査（平成 18 年 1 月 26 日開催）および第 4 回総務会議（平成 18 年 2 月 1 日開催）において、総務・規程 1 - 10 - 1 に基づき厳正に審査した結果、8 名が IEEJ プロフェッショナルの認定資格を満たしていることを確認した。
- ・平成 17 年度は、今回の 8 名を含め 66 名が認定された。

2.9 会員入（退）会の承認について

島田事務局長から資料 9「2005 年 12 月～2006 年 2 月会員入（退）会の承認について」に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

・個人会員入会者数	662 名
・個人会員退会者数	362 名
・事業維持会員入会数	0 社 (0 口)
・事業維持会員退会数	1 社 (1 口)
・事業維持会員口数変更	0 社 (0 口)

なお、平成 18 年 2 月末の会員数は、個人会員 25,131 名 (16 年度末比較：+ 803 名)、事業維持会員 472 社 / 3,317 口 (16 年度末比較：9 社 / 37 口) となった。

また、今回事業維持員で口数減口 (45 口 30 口) のお申し出があった松下電器産業㈱については、社長殿など社内のしかるべき役職の方宛に会長名で引き留めに関する書簡を作成し、長谷川会長に確認頂いた上、お送りすることとした。

【主な意見】

- ・以前の経験から、事業維持員口数によるメリットがないと引き留めは難しいとの印象をもっている。
- ・松下電器産業㈱の他学協会の加入口数等を調べた上で、交渉にあたるのが有効ではないか。
- ・しかるべき学会役員が訪問することが最も有効な手段ではないか。
- ・会長直筆サイン入りの引き留め書簡を有効に活用してほしい。

2. 10 物理チャレンジへの参画について

臼田副会長から資料 18「物理チャレンジへの参画について」に基づき、次のとおり理系を志す若者の夢を育むものであり学会の趣旨に沿うものと考えられるため、参画したいとの提案があり審議の結果、理学系学会とは別に、工学系学会の立場で参加する方向とすることが確認された。

- ・単に理学系だけでなく広く物理に関係する学会の参加が求められ、工学系学会の代表として、電気学会と日本機械学会に参加要請があった。
- ・高校生と高等専門学校 1～3 年次以下の生徒を対象とし、特に優秀な生徒を表彰するとともに、世界物理オリンピックに参加させる。
- ・電気学会に対しては、今後の物理チャレンジをどういうものにしていくかを審議する企画委員会への参画と会員数に応じた費用の負担 (電気学会の場合は 25 万円程度) が求められている。
- ・企画委員会だけでなく、全体を知るためには組織委員会にも参加するとともに、出来れば問題作成委員会等にも参画することとしたい。

3. 報告事項

3. 1 平成 17 年度 業務監査実施報告について

貞川監事から資料 10「平成 17 年度 業務監査の実施について」に基づき、去る 2 月 23 日に平成 17 年度 業務監査を実施し、今後 3 月末までの実績値を反映させ、関係会議体へ報告等を行っていくとの実施報告があった。

3. 2 名誉員の推薦について

滝沢総務企画理事および事務局から資料 11「平成 17 年度 名誉員の推薦について」に基づき、総務・規程 1-1「名誉員の推薦規程細目」に則り、今後評議員会の評議を経て次の 1 名を名誉員に推薦することになるとの報告があった。

沢 邦彦氏 (平成 12 年 5 月～平成 13 年 5 月会長 / 富士電機ホールディングス)

3.3 第94回通常総会「特別講演」講演者・演題について

村岡専務理事から資料12「第94回通常総会「特別講演」開催のご案内」に基づき、前回理事会において候補者3名の優先順位が決定されたことを受け、調整を行った結果、講師および演題が次のとおり決まったとの報告があった。

講師：大橋秀雄氏（工学院大学 理事長，JABEE 会長）

演題：「技術者コミュニティと学会への期待（仮題）」

3.4 平成17年度第2回電気・情報関連学会連絡協議会〔概要報告〕について

島田事務局長から資料13「平成17年度第2回電気・情報関連学会連絡協議会 議事録（案）」に基づき、次のとおり概要報告があった。

- ・今年度は、電気学会が当番学会を担当し、予定どおり会議を2回/年開催した。
- ・第2回（2月6日開催）では、技術者倫理への取り組みや日本学術会議の新体制と連絡協議会のあり方等について審議があり、特に後者については、日本学術会議第20期が会員210名/30の新規委員会でスタートしたことを受け（連携会員2,000名は選考作業中）、従来の3研連との「連絡会」を日本学術会議の新規関連委員会代表会員と電気・情報関連学会会長による「新生・日本学術会議」の具体的活動計画等や学会間との協力・支援、連携の必要性、可能性などについての意見・情報交換の場としてはどうかとの提案を電気学会から行い、連携会員の選考結果を見ながら検討していくこととなった。
- ・平成18年度当番学会は、電子情報通信学会が担当する。

3.5 支部役員の交代について

（1）東北支部

前川東北支部長（代理：秋山氏）から資料14「東北支部役員の交代について」に基づき、平成17年12月8日付けで支部役員会において、次のとおり支部役員の交代を承認したとの報告があった。

会計幹事：安孫子堅二氏（東北電力）→記野 秀一氏（東北電力）

協議員：大場 健二氏（東北電力） 森下 和夫氏（東北電力）

協議員：横山 晃氏（東北電力） 矢萩 保雄氏（東北電力）

（2）東京支部

塚本東京支部長から資料15「東京支部役員の交代について」に基づき、平成18年1月6日付けで支部役員会において、次のとおり支部役員の交代を承認したとの報告があった。

協議員：山元 篤氏（日本電気）→松本 義久氏（日本電気）

3.6 平成18年全国大会のご案内について

塚本東京支部長から資料16「平成18年電気学会全国大会」に基づき、横浜駅から会場までのバス便の混雑が懸念させるが、順調に準備作業が進んでおり、積極的な参加をお願いする旨の依頼があった。

3.7 事業概況報告について

島田事務局長から資料17「事業概況報告（平成18年2月末日現在）」に基づき、学会誌・部門誌のページ数、図書出版、研究調査会・電気規格調査会の委員会開催数などについて、平成17年4月から平成18年2月まで（学会誌・部門誌ページ数は、平成18年3月まで。また、研究調査会関係委員会開催数は、半期ごとの集計のための平成17年9月まで）の実績報告があった。

3.8 その他

(1) 公開シンポジウム「若者に電気の夢を」開催速報について

島田事務局長から資料19「公開シンポジウム「若者に電気の夢を」開催速報」に基づき、次のとおり報告があった。

- ・平成18年2月28日(火)13時30分～17時15分、経団連ホールで開催し、244名の参加があったが、若手の聴講者が少なく、開催日程の設定等に課題が残された。
- ・4件の講演に続き、6名のパネリストによるパネル討論(コーディネータ:佐々木副会長)を開催し、教育の問題・電気離れ・電気の夢・電気学会の役割と電気学会への期待などについて討論した。
- ・講演とパネル討論をうけて、最後に長谷川会長が電気学会のアクションプランを発表した。

(2) 平成17年度事業報告(個別)提出について

栗原課長から経営戦略会議議長名で事業報告作成・提出依頼を行ったので、期限までの提出ならびに4月26日の理事会において各支部長、部門長、関係者からの報告をお願いする旨依頼(再確認)があった。

以上、すべての議案の審議を終了し17時閉会した。